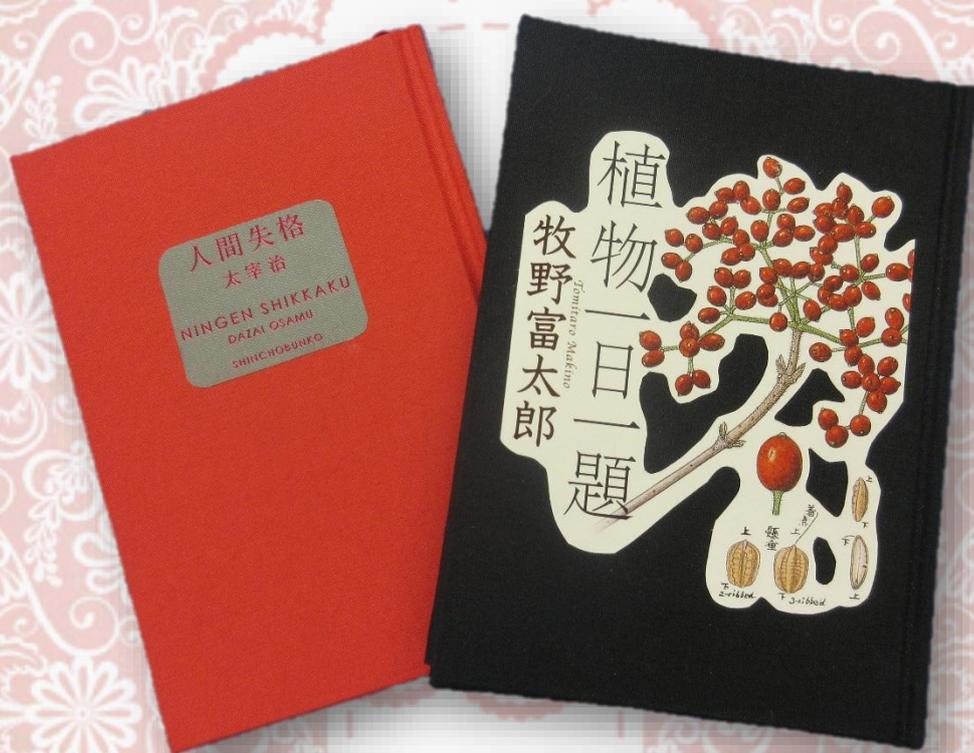


お気に入りの文庫本を
世界に1冊しかない
オリジナル上製本にしよう！



平成29年5月29日（月）

平成29年度 福岡県立図書館「製本に関する研修等」講師養成講座

「文庫本（並製本）を上製本に製本する」テキスト

文庫本（並製本）を上製本に製本する

その前に・・・

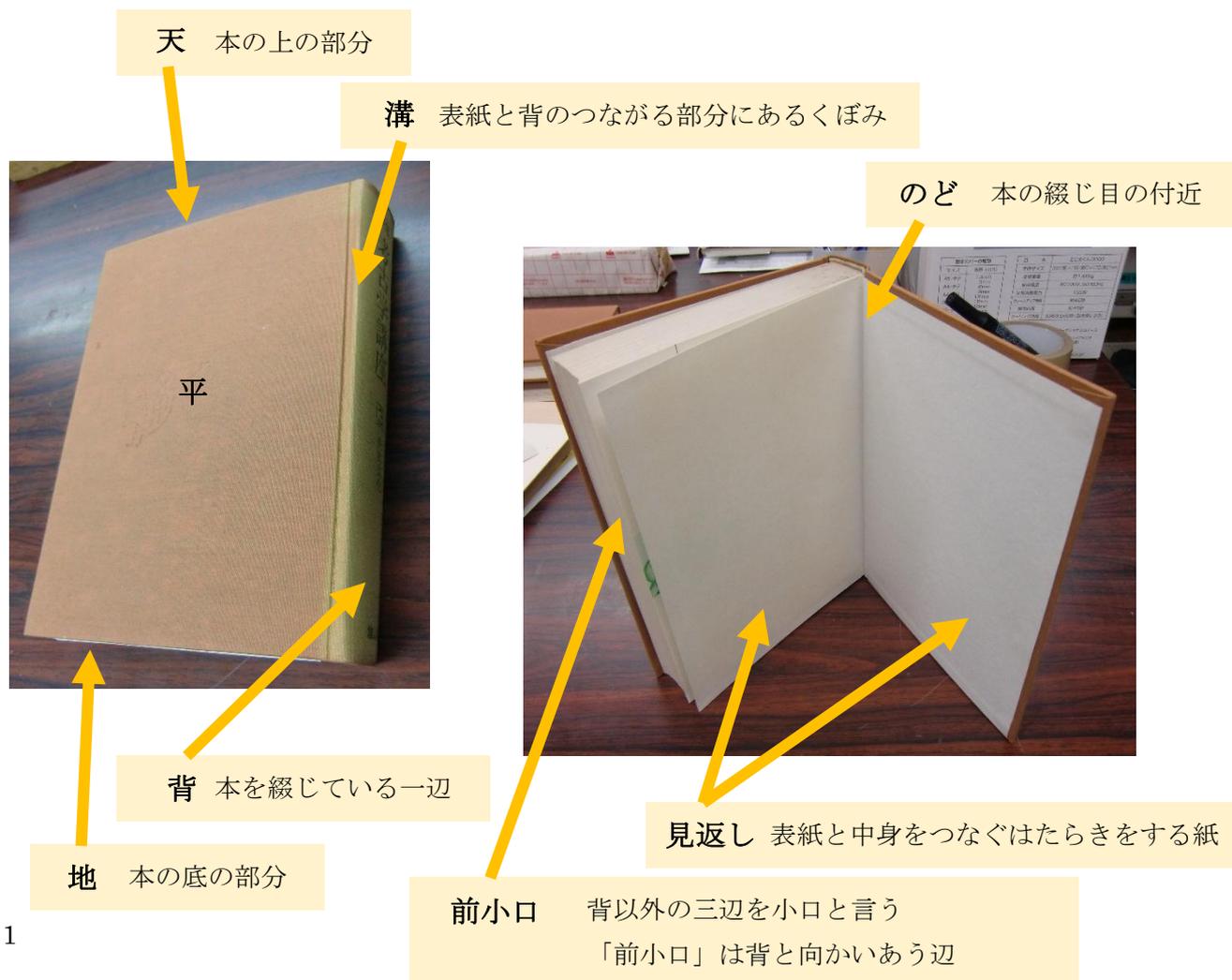
そもそも上製本ってどんな本かわかりますか？

作業の前に、基本的な本の各部の名称と上製本と並製本の違いを覚えておきましょう。

上製本・並製本の主な違い（見分け方）

本の仕様	上製本	並製本
綴じ	糸・あじろ	糸・あじろ・針金・無線
見返し	つける	つけないものあり
表紙（芯紙）	あり	なし
表紙貼り	あり	なし
表紙の大きさ（チリ）	あり（中身より大きい）	なし（中身と同じ寸法）
見返し貼り	全面ベタ糊	全面または小口糊

図書資料の各部名称



今回の研修では、市販の製本キッドを使用しています。
キッドを使用する場合は、準備する文庫本のサイズに気をつけましょう。

必要な道具

- 文庫本（10.7 cm以内×15.6 cm以内 厚み2cm 以内）
- 表紙用クロス（19 cm×30 cm） 1枚
- 見返し紙 2枚
- 板ボール（24 cm×16.9 cm 2mm厚） 1枚
- しおり紐 1本
- 花ぎれ 1冊分
- 裏打ち寒冷紗

製本キッドを購入する場合は、セットになっています。
花ぎれ、しおり紐は製本用品として売っています。
好きな色等を選べるとオリジナル感も増します。

- ボンド
- うすボンド（ボンドを水で溶いてヨーグルト状にしたもの）
- 捨て紙
- クッキングシート

- 筆記用具（赤ボールペン）
- 布巾 2枚
- 定規
- カッター
- はさみ
- カッティングマット
- 筆・はけ
- 水入れ
- ボンド入れ
- かけへら
- 竹ぐし
- クリップ 2個
- 手機械（あれば）

参加者の道具・材料がそろっているか
確認します。

文庫本は、持参させた方が、受講者も喜びます。
しかし、忘れた人、持参した資料が規定外の人等が
いた時のために、廃棄する文庫本を何冊か用意し
ておきます。

出来上がっているものを何冊か準備し、「こんなにきれいな本になりますよー頑張らしましょうね」と声掛けを
してあげると、テンションも上がります。

本番前に、何冊か練習用に作っておくと良いです。

研修の進め方を説明します。

今回は、一工程ずつに見せて、させる方法で進めます。

1 表紙カバーをはずす

表紙カバーや表紙のタイトルは仕上がり本に使用する。

※残したい場合は、残しても良い

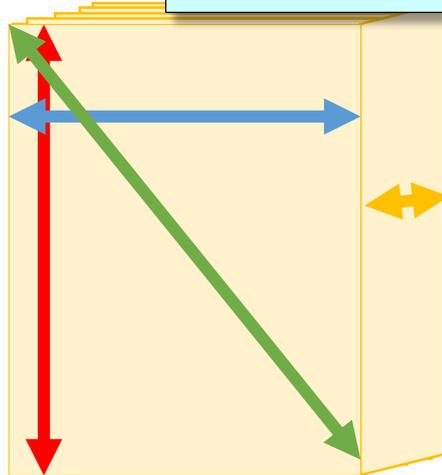


本のサイズ測りは、一番大切で、一番間違えるポイントです。
思った以上に時間がかかります。
又、サイズの測り間違い、計算間違いがあるとやり直ししなければ、
出来上がりません。
そこで、表の記入が終わったら、隣同士で確認し合ってもらくと、間
違いが減ります。
その後、板ボールとクロスに図のとおりに入力してもらいます。

2 本のサイズを図る

本の対角線 () cm

本の幅 () cm

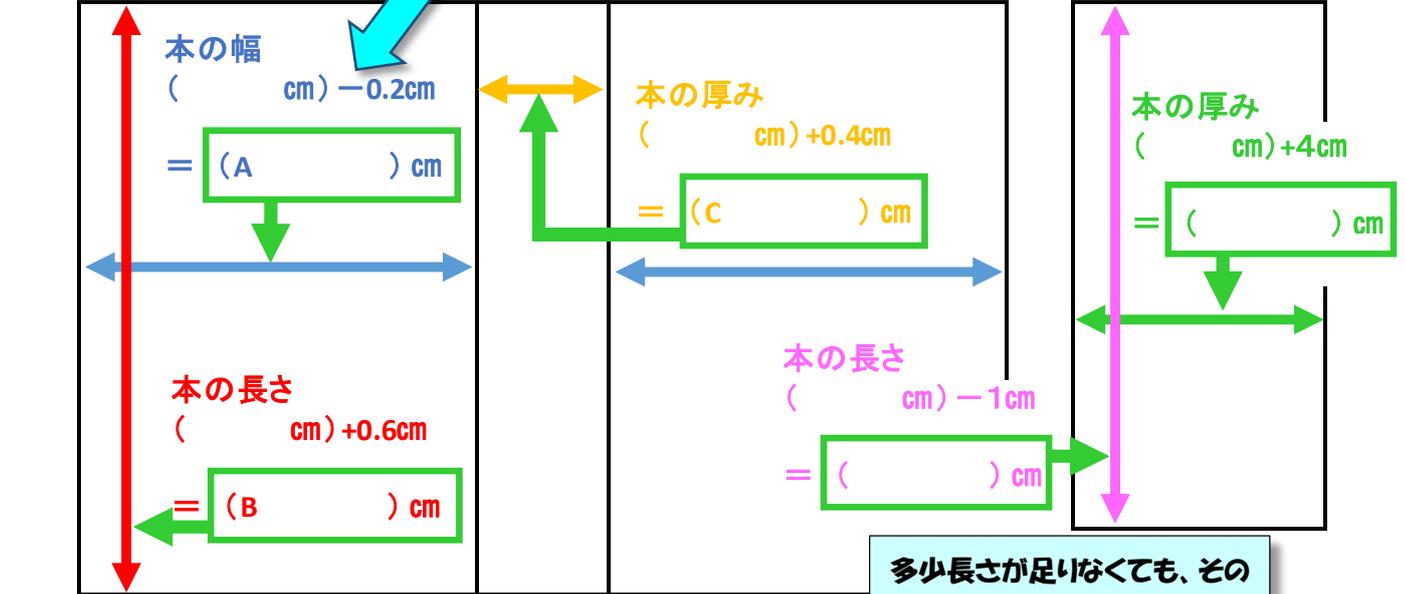


本の厚み () cm

本の長さ () cm

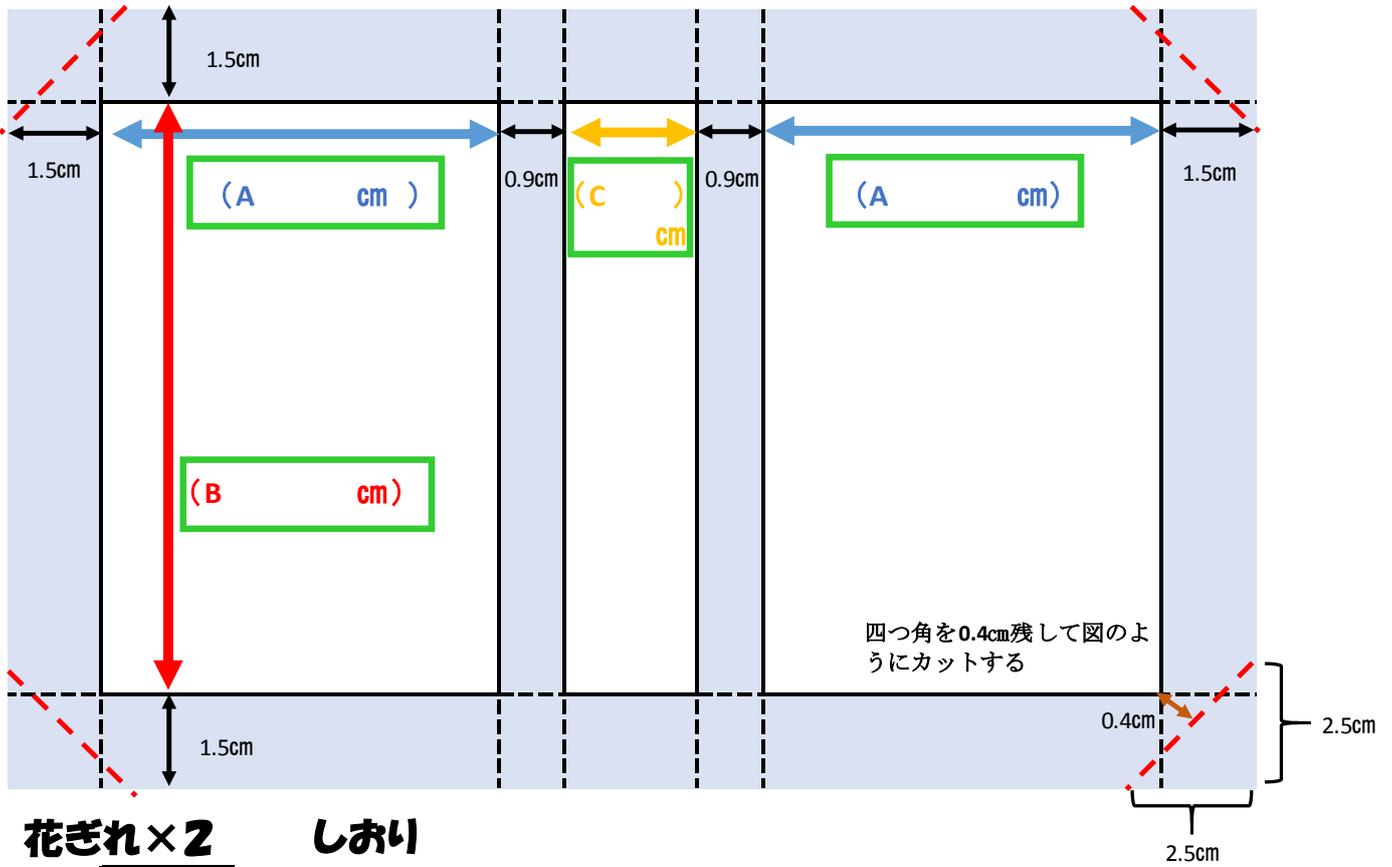
ここだけ マイナス です。
よく間違えます。

3 板ボール・クロスの作成



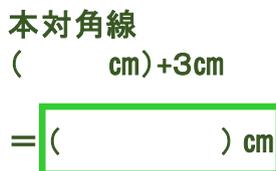
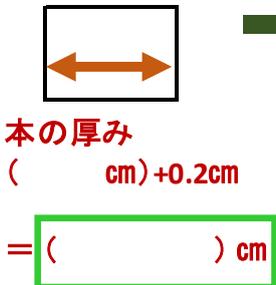
多少長さが足りなくても、その時は、その長さで大丈夫です。

クロス



花ぎれ×2

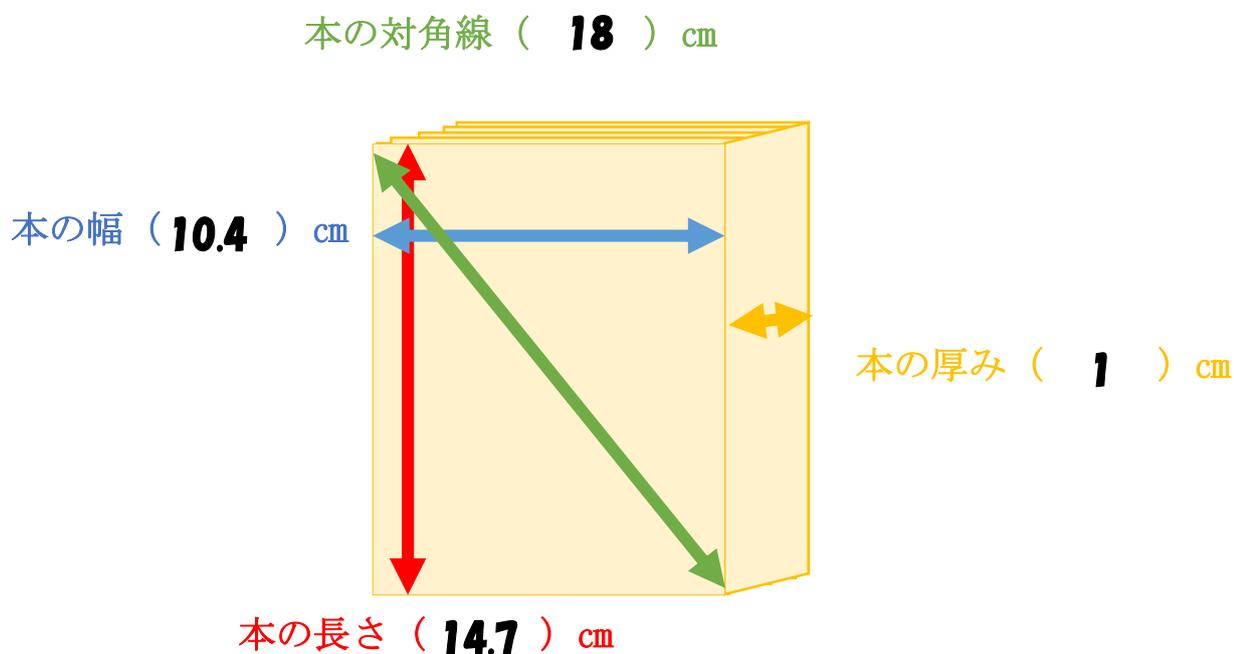
しあい



記入例

上製本に製本する予定の文庫本の

本の幅、本の長さ、本の厚み、本の対角線の長さを測り、記入する。



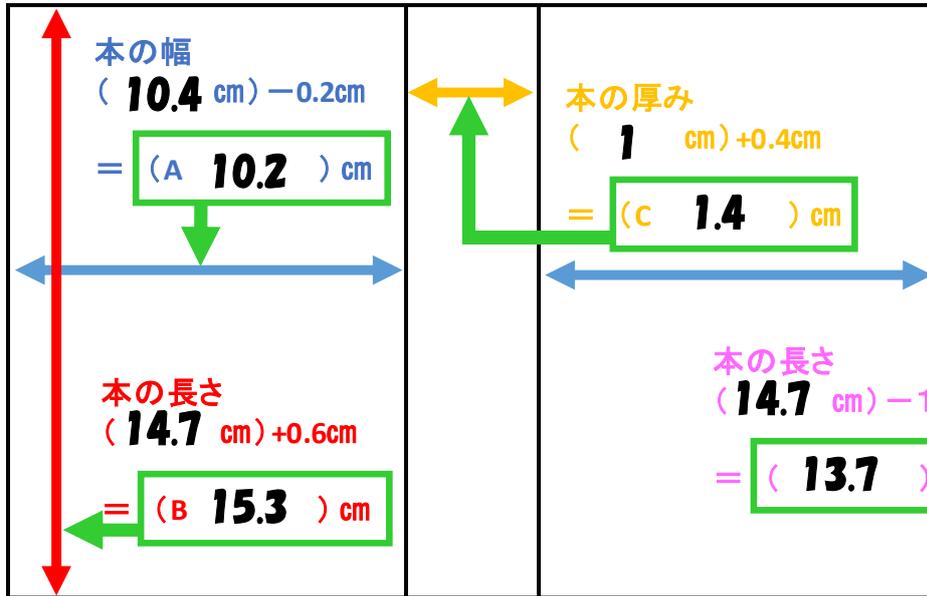
記入した長さを基に、板ボール・クロスのサイズを計算する。

基本的なサイズの出し方

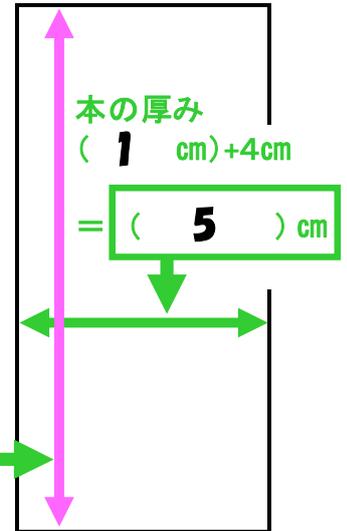
- 板ボールの長さ：本文長さ+チリ寸法×2 (今回チリは0.3 cm)
- 板ボールの幅：本文幅+前小口のチリ寸法-ミゾ幅+背ボールの厚さ+0.5~2 mm (余裕分)
- 背ボールの幅：本の厚み+板ボールの厚さ×2
- ミゾの幅：板ボールの厚さ×3+余裕 だと 180° 度開く

板ボール・クロス サイズ

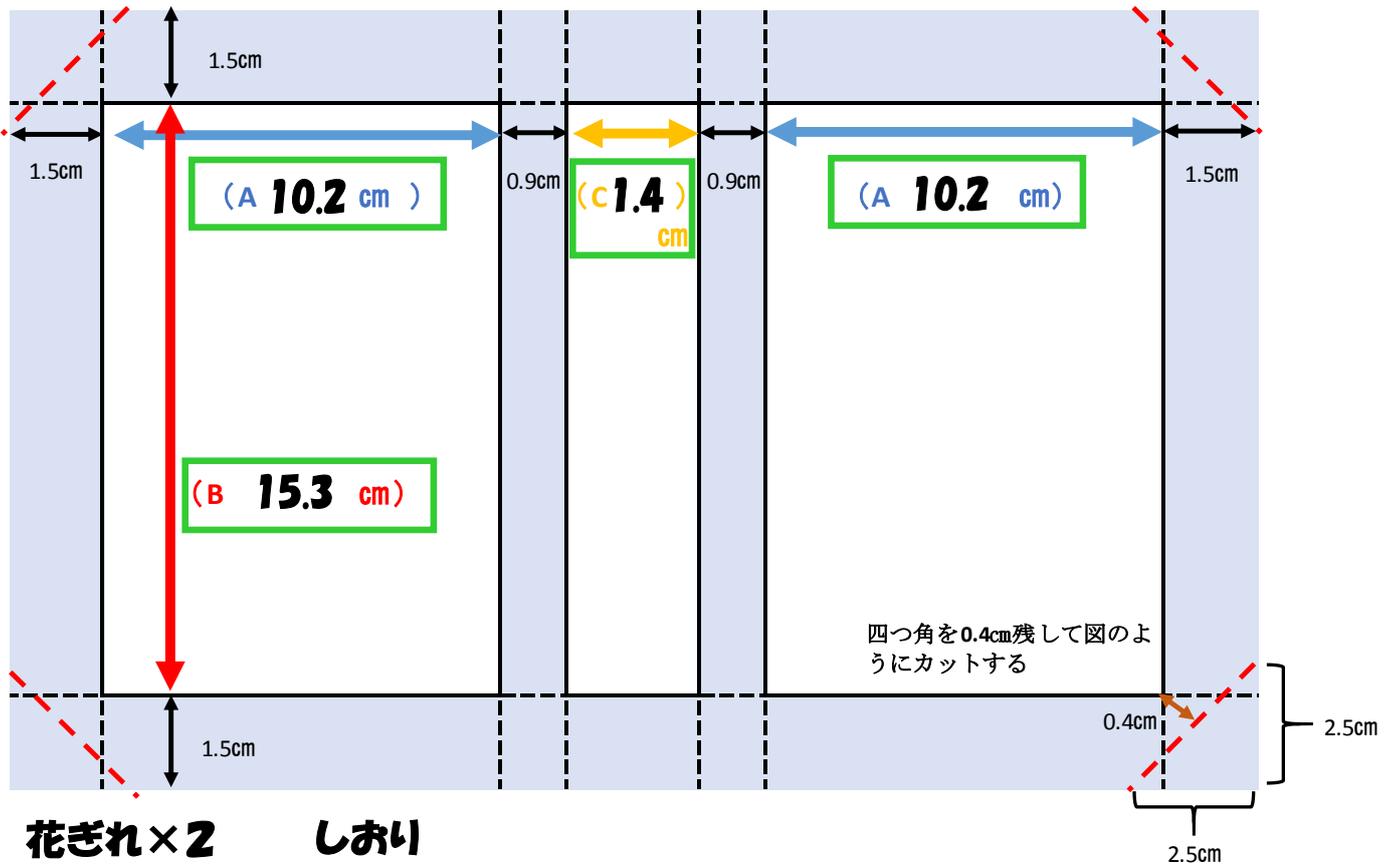
板ボール



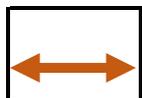
寒冷紗



クロス



花ぎれ×2



本の厚み
(1 cm) + 0.2cm
= (**1.2**) cm

しおり

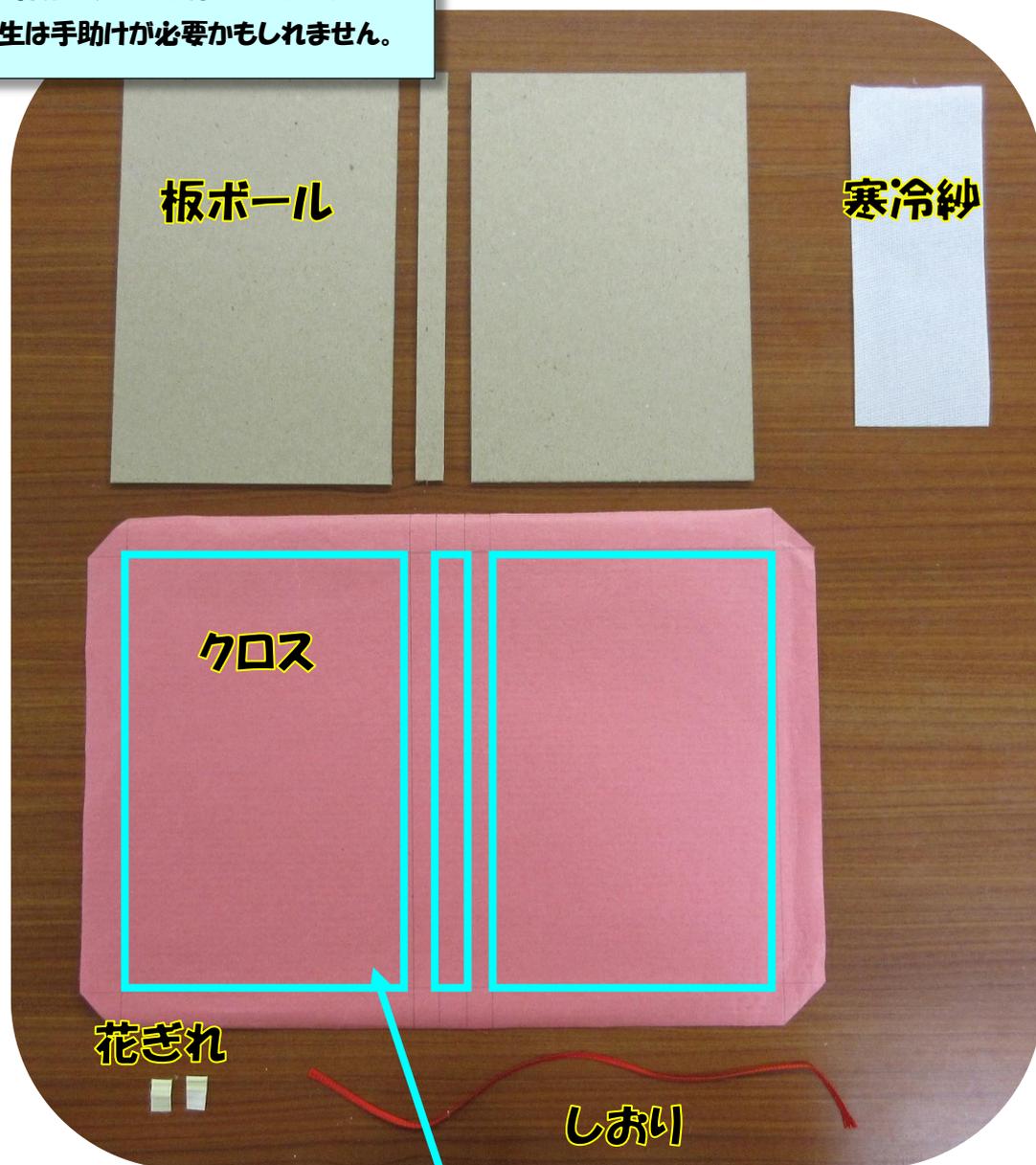


本対角線
(18 cm) + 3cm
= (**21**) cm

このように出来上がれば、準備完了です。

7P の図のとおり、板ボール・クロスに図を書き、
カッターと定規で切り、それぞれパーツを完成させ
ます。

板ボールを切る作業は、とても力がいります。
高齢者や小学生は手助けが必要かもしれません。



クロスはこの部分に、板ボールを貼りますので、切り
終わったらのせてみて、もし、ぴったりにならなかつ
たら、どこかサイズが間違っています。

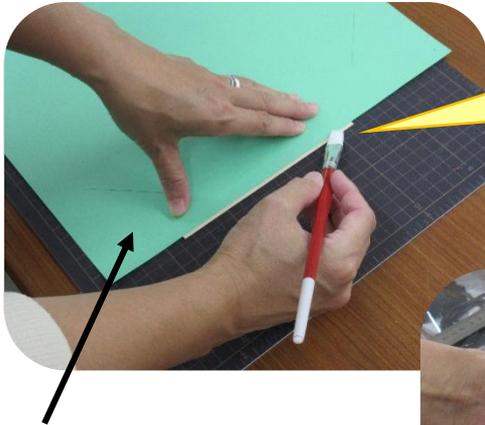
ここから、ボンドを使用します。

手にボンドがついたら、すぐに濡れた布巾でふき取ります。

クロスにボンドが付くと汚れて、綺麗に仕上がりにません。

4 見返し貼り

見返し紙をつるつるした面を外側に二つ折りにし、本の大きさに合わせて切り揃える。



見返し用紙の輪側に4～5mm幅でボンドを付ける

捨て紙を当ててボンドをつけると、きれいに仕上がる

濡れ布巾は、資料につかないように気をつけてください。

本文が水濡れになると、悲しいことに…



本の背側に合わせて表紙側と裏表紙側にそれぞれ貼る

5 背固め

- ① しおりひもを本文の背の天にボンドで貼る
(もともとついているしおり紐をそのまま使っても良い)



天地をまちがえないように

- ② 花ぎれを本文の背の天地にボンドで貼る

花ぎれの芯が本ののっかる感じで貼る



③ 寒冷紗のつるつるしている面にうすボンドを塗り、本文の背に貼る

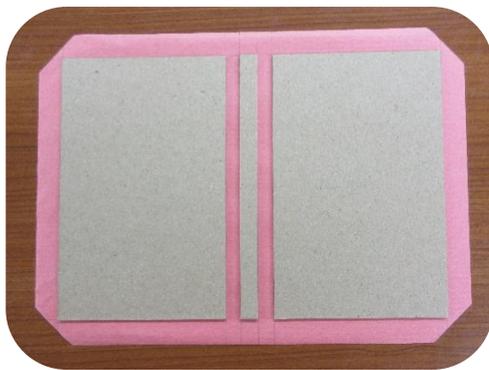


花ぎれと花ぎれの間に貼る

6 表紙貼り

クロスと板ボールと両方にうすボンドを塗ります。

① クロスに板ボールをうすボンドで貼る



② 天、地から折り返して内側に強く引きながら貼り、ヘラでよくこする。



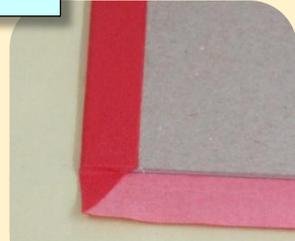
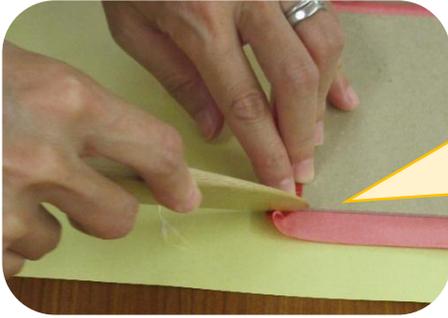
うすボンドを付ける

強く引きながら折り返して貼る



角のカットが4mm以上だともたつきませんが、4mm以下だと板ボールが飛びでてしまいます。

③ 角を折り込む

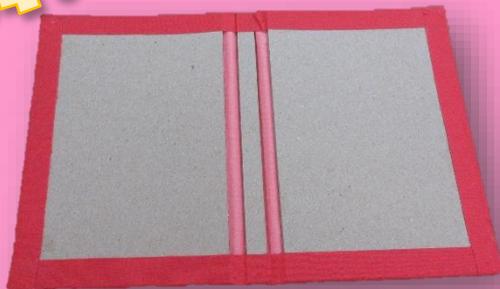


難しいので、みて回ってできない人は手伝ってあげます。
角の処理で、仕上がり具合が変わってきます。

④ 前小口を同様に、折り返して内側に強く引きながら貼り、ヘラでよくこする。



表紙の完成

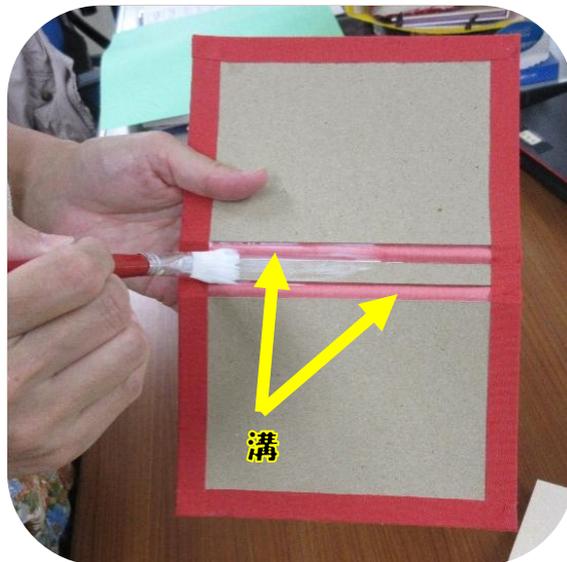
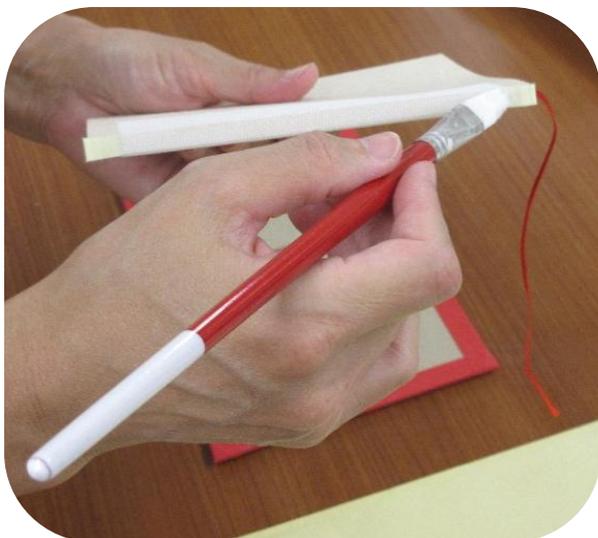


この様、くるみの作業となります。
実演してみせる間、落ち着かせるためにフレスをしておくとも反りが出にくい
です。

7 くるみ

- ① 本文の背と表紙の背・溝にうすボンドをつける

うすボンドを塗る前に、くるんでみて、
出来上がりをイメージしておきます。

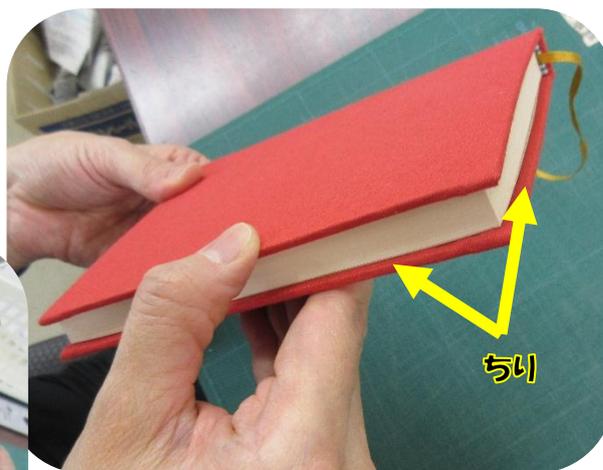
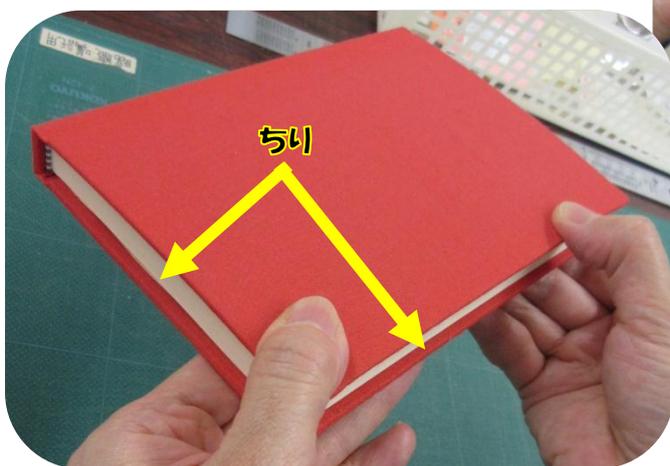


- ② 本文の背と表紙の背をつける



本文をしっかり押して、背が浮かない
ように気をつけます。
慌てず、しっかり形を整えます。

- ③ 三方のちりが均等になるよう調整する



- ④ へらで溝をしっかりとつける



- ⑤ 竹串を挟みクリップで留める



クリップは斜めにかける。
あまり深く挟まない

8 見返し貼り

- ① 見返し紙の間に捨て紙とクッキングシート等を挟みうすのりをつける



捨て紙の下に、クッキングシートを挟んでおく

うすボンドはできるだけ手早く塗る

- ② 捨て紙を外し（クッキングシートは残す）表紙を閉じる



手機械で締め方が見返しにしわがよりにくく、美しく仕上がります。
どうしてもない場合は、しっかり乾いた布巾でこすります。

9 仮締め

手機械で、10秒間くらい強くプレスする

手機械は、1台しかない場合が多いので、順番に一人ずつします。
待っている間に、本の装丁を考えて、外した表紙やカバーをカットしてもらっておきます。

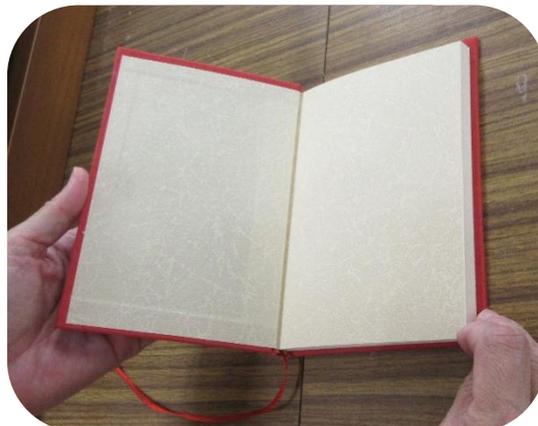
表紙が終わったら、裏表紙も同様に見返しをつける



10 仕上げ

- ① 表紙を少し開け、回りにはみ出たのりをふき取り、湿気を逃がす。

自分だけの本の装丁を考える事は、とても楽しいので、思った以上に時間をとる事があります。
作る人が、納得のいく仕上がりになるよう余裕をもった時間配分ができるのが理想的です。



- ② 軽いプレスか重しをして半日くらい乾燥させる
- ③ 元のカバーや表紙のタイトルを切り抜いて貼る

できあがい

